

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（4月分）

留学先：ルーマニア・アメリカ大学

氏名：奈良健一郎

学習面では、4月の中旬あたりに中間テストがありました。この中間テストで10点中8点以上をとると6月に行われるテストが免除され自動的に単位を獲得できます。中間テストの行い方は様々で、テストかプレゼンテーションを課す科目がほとんどです。この中間テストが終わると、Module 2が始まります。Module制は福井大学のquarter制とは違い、quarter制では1st quarterの授業が2nd quarterに引き継がれますが、module制では、2nd moduleに入ると授業がすべて入れ替わります。授業は学部生向けと院生向けの授業に分かれており個人的な意見ですが、学部生向けの授業は聞いてるだけのことが多くあまり話す機会が少ないです。ほんとに英語をつかったpracticeを意識するなら院生向けの授業をお勧めします。ただ院生向けの授業はレベルが高くかなり専門分野での知識が求められます。さらに4月はGuest Courseも多数存在していて授業の空きコマにある場合とるべきだと思います。自分が受けた授業は、アメリカからの教授で教え方が本当に丁寧でわかりやすく、また自分のプレゼンテーションを見直すきっかけになった授業でした。

課外活動ではAsian Centerと連携して行われる、春うららというイベントが5月の中旬に開催されるので、準備が忙しくなってきました。Asian CenterのSerbanさんが様々な課題を与えてくれます。自分の場合ツアーガイドに関連した仕事が欲しいと頼んだので、春うららのイベントの際こられる日本人の方をガイドする仕事の責任者を任せられました。しかし私だけでなく日本語が話せるAsian Centerの学生2人も協力して下さるので安心です。おもに今行ってる仕事として、実際にイベントの際ガイドする予定のルーマニアの観光地についての紹介文を日本人にとって魅力的になるように作っています。あまり有名な場所ではなく、自分も実際に行ったことのない場所ばかりなのでインターネットの情報やガイドブックの情報を参考にさせてもらいながら作っています。他に行ったこととしては、Asian Centerの学生が作ってくれた春うららのイベントのスケジュールの英語版を日本語訳するという作業を行いました。英語と日本語の微妙なニュアンスの違いから、ただ単純に翻訳しても、文章が意味が分からなくなったりしてしまいうまく自然な日本語として翻訳していくのが難しかったです。

生活面に関しては、4月の最初にイースターホリデーがあり、フランスのパリに旅行をしました。また4月の末にはイギリスのロンドンへ訪れ、ヨーロッパの観光大国の魅力に圧倒されました。自分の場合半年の留学なのであつという間です。勉強ももちろん大事なのですが、せっかくヨーロッパに来ているのでテレビで見るような歴史的にも文化的にも有名な場所に行くことも大切だと思いました。週末は基本、授業の空きも多く月曜日も授業は午後からなので、十分旅行に行くのに時間があります。旅行に行って感じたのは、見るものすべてが新鮮なので感動できたのと、普段日本では体験しない、世界的に有

名な博物館、または美術館を回ることによって歴史についての関心も深められるし普段味わうことのできないものに心を動かされました。

さらに週末などに Asian Center の学生がいろいろイベントを開催してくれます。例えば誰かの誕生日パーティやお花見などがあります。こちらの面白い文化として、日本では誕生日には、他の人がパーティやサプライズなどを企画して誕生日に人を祝いますが、ルーマニアでは逆に誕生日の人が自分の誕生日を祝うパーティを企画して他の人を誘っていきます。日本人としては、自分からパーティを企画することはあまりないので、意外だと思いました。

必要な手続きとして3月末に immigration office に行つて residence card を手に入れるための書類を提出してこなければなりません。residence card は visa の代わりのようなもので3か月以上滞在する学生、つまり半年する学生も必要です。手続きを行った後、約1か月程度で完成するので4月の末に受け取るためにまた immigration office に行く必要があります。上の写真がお花見をした日本庭園がある公園の一部で、下の写真が春うららのイベントでもガイドする国民の館に続く統一大通りです。

